

県新リゾート計画

交通不便・募集苦戦 不安視する声も

「創造大学校」周辺

昨年4月に県農業大学校を改編して桜井市高家に開校した「なら食と農の魅力創造国際大学校」の周辺で、県が新たなリゾート施設の整備を検討している。「美と健康」をテーマにコテージや温浴施設を建設し、アロマセラピーやワインの生産など、女性に人気がありそうな体験型の内容をちりばめる。だが一帯は交通の便が悪く、同校は学生募集にも苦戦しており、新たな構想を不安視する声も出ている。

（近藤修史）

県によると、同校の隣接地など民有地3か所を買取り、計約2・5㌫を開発。南側の高台（約0・7㌫）を「癒やしのリゾート」として、コテージ数棟と温浴施設を建設する。構想をまとめた資料には、「フランスのアロマセラピー技術も

併用した癒やしの施設」と記載し、ワインの生産や、薬膳料理を提供するアイデアなども盛り込んでいる。建設・運営主体や完成時期、事業費などは未定だが、荒井知事は「漢方や薬草をテーマに、上質な癒やしを提供する空間にできたら」と説明する。

っているのに、これ以上の投資は必要ない」と批判する声が上がっている。17億2000万円をつぎ込んで整備した同校の人气が芳しくないからだ。

同校は農業や経営にも詳しいシェフを養成するため、農業大学校としては全国初という「フードクリエイティブ学科」を設置した。しかし、定員20人に対し初年度の出願は15人で、全員が合格。今春入学する2期生の出願者数も、2次募集までで12人ととどまっており、予定外の3次募集を実施中だ。

市街地からは南へ約4キロ離れており、朝夕各2便のスクールバス以外に公共交通機関がないことが、低迷の理由とみられる。

県担い手・農地マネジメント課は、リゾート施設の整備について「もっといい内容があれば取り入れた。国の予算をできるだけ多く確保し、構想実現に向けて工夫する」と説明している。



県が周辺にリゾート施設の整備を検討している大学校の場所

このほか、同校北側（約0・6㌫）では、県産木材などを販売する「農と林の直売所」の設置を計画。一方、南側（約1・2㌫）では公設公営で学生らが宿泊できるセミナーハウスや、講師らが泊まるゲストハウスの整備が始まっている。

これに対し、県議会からは「大学校が定員割れにならなくても調理師免許を取得できないうえ、最寄りのJR・近鉄桜井駅周辺の